



被災地医療支援チームと病院薬剤師

平成23年3月11日の東日本大震災は皆さんの記憶に新しいことと思います。東日本の広い範囲で被災にあいました。震災後、被災地での医療を維持するため多県から医療チームが派遣され活動して来ました。神奈川県からも多くの医療チームが被災地の医療支援に参加しました。医療チームには薬剤師も多数参加をしました。被災地での薬剤師の支援業務は、主に三つがあげられます。

① 医療支援チームの調剤・服薬指導

一つは、医療支援チームの一員として診療を行うことです。医師の処方に対する調剤と患者さんへの服薬指導です。薬を全て流されてしまった被災者には「お薬手帳」がとても有用でした。また、限られた薬の中で医師が望む効果が得られる医薬品を提案するなど、薬のプロフェッショナルとしての手腕が問われる場でもありました。

一部のチームでは、薬剤師が業務調整委員として活動し、チームの移動の手配や避難所、対策本部等との調整を薬剤師が行っていました。

② 被災地医療機関の薬局支援

一つは、被災地の医療機関の薬局へ支援に入ることです。被災した病院で外来患者さんへの調剤や注射薬の混合調製を行ったり、通常と同じような業務を被災地で行いました。業務の繁忙を少なくするとともに、当直など現地薬剤師の負担を軽減できたと思います。

③ 被災地の支援物資倉庫での仕分けと管理

一つは、支援物資が集められた倉庫での仕分けは、発災後、被災地には医薬品や食料など物資が足りないという情報があり、日本中からいろんな物が大量に被災地へと届けられました。食料も衣類も医薬品も区別なく同じ場所へ運ばれ、その中から必要なものを探すことが難しくなっていました。中でも医薬品は先発品・後発品や一般薬などいろいろなものが入り混じっていました。それを、医療チームが必要なものを探せるように整理したり、被災地域以外に発注したりする業務を行いました。

震災での被災地への支援は過去数度となく行われて来ました。阪神・淡路、中越と経験してきた中で、他都道府県からの支援と言うのは確立されてきたように思われます。被災地に多数の物や人が集められたとき、それを指揮や支持する、人や部署が必要になります。今回、医療支援の場では、薬剤師がその一翼を担えるのではないかと、言う思いを強く感じています。

東日本大震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

賛助会員 鈴木 美隆

